

農業農村整備事業（公共）

【5, 000百万円】

対策のポイント

農村地域の防災・減災のための農業水利施設の湛水被害防止対策、耐震化対策等を推進します。

<背景／課題>

- ・平成27年は特に集中豪雨が頻発しており、また、近年においても大規模な地震が発生しているところであり、今後も多くの災害の発生が危惧されています。
- ・農村地域の防災・減災を図るためには、農業水利施設の整備状況や利用状況等を把握し、農村地域全体における災害対策上の課題を整理した上で、地域の実情に即した整備を実施することが重要です。
- ・また、今後発生するおそれのある災害に対して、緊急性や重要性の観点から優先度に応じて事業を推進する必要があります。

政策目標

湛水被害等の災害のおそれの解消（約10万ha以上（平成28年度））

<主な内容>

農業水利施設等の防災・減災対策

周辺に住宅や公共施設等があり施設が損壊した場合に被害を与えるおそれがある排水機場やため池等の農業水利施設の湛水被害防止対策や耐震化対策、農村地域の地すべり対策等を実施します。

国営かんがい排水事業	700百万円
国営総合農地防災事業	300百万円
農村地域防災減災事業	4,000百万円
国費率、補助率：2／3、1／2等	
事業実施主体：国、都道府県等	

[お問い合わせ先：農村振興局設計課（03-3502-8695）]

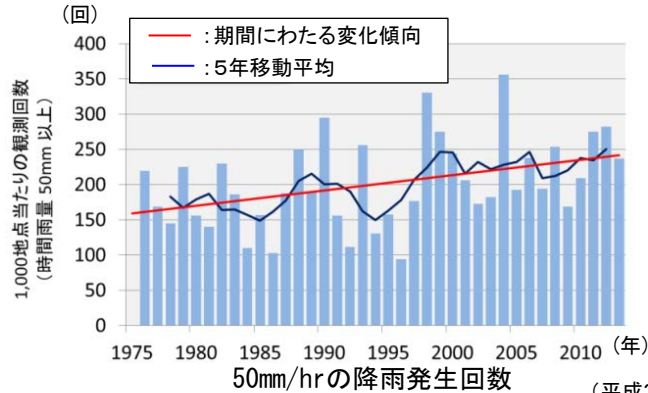
農業農村整備事業（防災・減災対策）

- 平成27年は特に集中豪雨が頻発しており、また、近年においても大規模な地震が発生していることから、今後も多くの災害の発生を危惧。
- 農村地域の防災・減災を図るためには、農村地域全体における災害対策上の課題を整理した上で、地域の実情に即した整備を実施することが重要。
- 災害を未然に防止するため、排水機場やため池等の農業水利施設の湛水被害防止対策や耐震化対策、農村地域の地すべり対策等を緊急的に実施。

課題

集中豪雨等の自然災害の激甚化

- 時間50mmを超える**豪雨の発生頻度は近年増加傾向にあり、本年は豪雨による大規模な被害が発生。**



豪雨により土砂が流入した農地



豪雨で損壊した堰

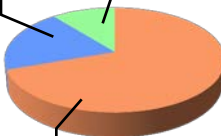
(平成27年9月関東・東北豪雨における被害)

- 南海トラフ地震の被害想定エリアには**全国の基幹的水利施設の3割**が存在。

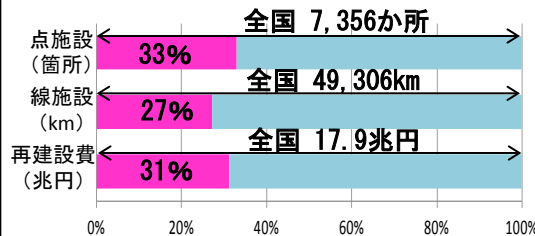
- ため池は全国に約20万か所。そのうちの主要な**ため池の約7割が江戸時代以前の築造**で、豪雨や地震に対して脆弱なものが多数。

<ため池の築造年代>

明治・大正 約20%
昭和以降 約10%



江戸時代以前 約70%



■ 南海トラフ巨大地震の被害想定範囲内の基幹的水利施設
■ それ以外のエリアの基幹的水利施設



豪雨で決壊したため池

対策

農村地域の防災・減災

- 排水機場等の農業水利施設の**湛水被害防止対策や耐震化対策、ため池一斉点検を踏まえた整備**等を実施。

- 洪水被害防止対策



小学校

幹線道



ポンプ羽根車の設置



排水機場

- 耐震診断



堰柱コア採取

- 耐震化



耐震化前の頭首工堰柱



耐震化後の頭首工堰柱

- ため池一斉点検を踏まえた整備の実施



点検調査



改修前の堤体



改修後の堤体